

令和4年度学校保健シンポジウム （愛知県医師会）について

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」という。）は、作成した事故防止に資する資料の活用方法を幅広く周知し、資料の活用促進を図ることで、学校等の管理下における事故防止の支援や、円滑な学校教育の実施に積極的に貢献するため、担当県（富山県・石川県・福井県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県）の各教育委員会・学校（園）・関係機関等と連携し、教職員等を対象とした研修会に講師として職員を派遣しております。

今回は、愛知県医師会から令和5年3月5日（日）に愛知県医師会館9階大講堂で開催の令和4年度学校保健シンポジウムへの講師派遣依頼を受け、医師会員、愛知県下の学校医、学校長等学校管理職、保健主事、養護教諭及びその他学校保健関係者約100名へ以下の内容について説明を行いました。



【研修会風景1】



【研修会風景2】

【令和3年度災害共済給付状況及び体育活動中における骨折事故の傾向及び事故防止対策】

1 令和3年度災害共済給付状況（愛知県）

愛知県の加入者数は103万7,465人で、令和2年度と比較すると約6,700人減少、医療費の発生件数は5万1,086件で、令和2年度と比較すると約5,900件増加、継続治療分も含めた給付件数は10万5,375件で、令和2年度と比較すると約1万700件増加、給付金額は7億2380万3,737円で、令和2年度と比較すると約9890万円増加しました。

学校の管理下での負傷・疾病により後遺障害が残った事例は18件で、令和2年度と同じ件数で、等級別の件数では、第14級が6件、13級が2件、12級が5件、11級が1件、10級が2件、7級が2件となり、障害種別の件数では、視力・眼球調節機能・眼球運動障害が4件、聴力が1件、歯牙障害が3件、神経系統が1件、醜状が4件、胸腹部臓器が1件、せき柱が1件、手指の切断・機能が3件でした。

死亡は2件で、令和2年度と比較すると1件増加しました。

令和3年度 災害共済給付状況（愛知県）

学校種別	医療費			
	発生件数	給付件数	給付金額	
小学校	17,190	28,990	149,773,118	
中学校	13,363	27,628	163,072,885	
高等学校・ 高等専修学校	全日制昼間学科	14,352	39,752	374,851,084
	定時制夜間等学科	143	292	2,348,264
	通信制通信制学科	1	31	81,614
高等専門学校	61	163	1,646,084	
幼稚園	1,035	1,566	6,087,109	
幼保連携型認定こども園	668	986	3,358,493	
保育所等	4,273	5,967	22,585,086	
合計	51,086	105,375	723,803,737	

令和3年度 災害共済給付状況（愛知県）

学校種別	障害見舞金		死亡見舞金		
	件数	給付金額	件数	給付金額	
小学校	3	3,950,000	0	0	
中学校	1	11,900,000	2	56,000,000	
高等学校・ 高等専修学校	全日制昼間学科	11	32,050,000	0	0
	定時制夜間等学科	1	4,300,000	0	0
	通信制通信制学科	0	0	0	0
高等専門学校	0	0	0	0	
幼稚園	0	0	0	0	
幼保連携型認定こども園	1	2,250,000	0	0	
保育所等	1	880,000	0	0	
合計	18	55,330,000	2	56,000,000	

【資料：令和3年度災害共済給付状況（愛知県）の抜粋】

2 体育活動中における骨折事故の傾向及び事故防止対策

体育活動中での事故としては、小学校・中学校・高等学校等のいずれの学校種においても、骨折事故が最も多く発生していることから、令和2年度のスポーツ庁委託事業「学校における体育活動での事故防止対策推進事業」にて平成30年度災害共済給付データを活用して、体育活動中の骨折事故防止対策をまとめました。

「骨折事故の発生件数と割合」を見ますと、体育活動中に年間15万件もの骨折事故が発生し、中には後遺症が残るなど、重症化してしまう骨折事故もたびたび発生しています。安全な体育活動の実現に向けて、骨折事故の現状を知っていただき、予防策について考えていきましょう。

骨折事故が発生するタイミングや骨折部位の特性は、種目ごとに様々で、その予防策は異なるため、今回は、小学校の体育授業の骨折事故で最も多い跳箱運動及び中学校及び高等学校等の体育授業・運動部活動ともに、骨折事故で最も多いバスケットボールについて、骨折事故の発生しやすいタイミング、事故の実態、予防策について説明を行いました。

(1) 跳箱運動（小学校）

主なけがの原因は、「跳箱の上で手が滑る」、「跳箱から落下し、手指部、前腕部等を床に強打する」、「跳箱から落下し、自分の手の上に乗る」、「跳箱の上に着地した際に手首の上にお尻が載る」などです。

骨折事故の傾向としては、手・手指部で多く発生しており、前腕部は重症化しやすいことがわかりました。

小学校の跳箱運動における骨折予防のポイントとしては、まずは「正しく手をつく動作の習得」です。

跳箱の奥側に手をつく練習、手をついたときに手で身体を支えて上体を起こす練習を行ってください。

跳箱を使った練習以外に、両方の手足を使って前に進むカメさん歩き、トカゲ歩き、手押し車等両方の手のひらでしっかりと手をつく動作を身に付けさせてください。

次に「個々の能力に合わせた個別的、段階的な指導」です。

高い段数や難しい跳び方ができることではなく、跳箱の一連の動作が適切にできることを目標に、個々の動作の習熟度を確認しながら、段階的に指導してください。

また、段数選択にあたっては身長を考慮し、跳箱の両サイドにはマットを敷く等活動場所の工夫を行ってください。

(2) バasketボール（中学校及び高等学校等）

主な事故の原因は、「転倒して、足を捻る」、「他の生徒と衝突・接触する」、「ジャンプしてボールを取る」、「床に手をついたり、強打する」、「顔面（眼、鼻、口等）に肘が当たる」などです。

事故の傾向は、手・手指が体育活動中で90%、運動部活動中で50%を占め、手・手指部、足関節で重症化しやすいです。

また、足を捻った時、他の生徒と衝突時に重症な骨折が起きています。

中学校・高等学校等のBasketボールにおける骨折予防のポイントは、まず「転倒を防止するための準備運動等」です。

転倒を防止するため、体幹の強化や股関節、手・足関節の可動性を高めるストレッチ等を取り入れ、ウォーミングアップを入念に行ってください。

次に「安全に配慮した活動の工夫」です。

コート of 広さ等により、3対3など数の少ないゲームの展開、技能が未熟な場合の基礎練習の徹底、個人差に応じた練習時間・練習内容の調整等を行ってください。

最後に児童生徒等の安全を確保することは、すべての体育活動実施の前提条件であり、安全が確保できることにより、子どもたちが安心して伸び伸びと体育活動に打ち込み、本来の能力を発揮できることにつながることで、そのため、体育・スポーツ活動の指導に当たる先生方には、事故の実態や発生原因、防止方法の理解と必要な対策、そして、必要な指導や危機管理を実施することが求められていることについて、お話ししました。

種目別に見る骨折事故の傾向及び骨折予防のポイント

跳箱運動



小学校

手・手指部で多く、前腕部は重症化しやすい。

手が滑った、跳箱から落下した、床に体を強打した、跳箱の上に手をついた際に、手首の上にお尻が乗ってしまった時に起きやすい。

種目別に見る骨折事故の傾向及び骨折予防のポイント



正しく手をつく動作の習得



個々の能力に合わせた
個別的、段階的な指導

【資料：体育活動中における骨折事故の傾向及び事故防止対策の抜粋】

【最後に】

名古屋支所管内の教育委員会や関係団体において、「JSC職員から事故防止に関する話をしても
らいたい」等のご要望がございましたら、ぜひ名古屋事務所へご連絡ください。